

〔国際会議開催〕

申請者	東京大学大学院 工学系研究科 教授 中須賀 真一	2195009
国際会議名称	The Seventh UNISEC-Global Meeting	
開催期間	2019 年 11 月 30 日～12 月 3 日	
開催場所	東京大学小柴ホール (文京区本郷)	
申請者の役割	運営責任者	

概要：

UNISEC-Global Meeting は、宇宙技術の人類への貢献とそのための人材の育成を主眼とした国際会議で 7 回目となる今回の会議は、国連の「持続可能な開発目標 (SDGs)」への貢献や地球規模の問題である宇宙 debris への取組み、UNISEC のコミュニティの拡大、及び参加学生の積極的な関与等を図るために、令和元年 11 月 30 日～12 月 3 日、東大で開催した。

会議には 37 の国/地域、国際機関から 163 名が参加し、9group に分けたテーマ別討論、宇宙技術の早魃/洪水対策や宇宙分野の男女平等に関する 2 つのパネル討論、超小型衛星の利用に関する最終審査に残った 10 チームの発表と審査及び結果発表、学生代表による研究発表等が行われた。

今までの会議に比し、参加国/地域数では 2 番目、参加者数は 1 番目であった。この会議に対する各国の関心が徐々に高くなってきている。これは、UNISEC-Global が 2017 年に国連の宇宙空間平和利用委員会のオブザーバー・ステータスを取得し、以来、同委員会に毎年その活動を紹介していることや、また、立石科学振興財団からの助成金により学生が参加し易くなったのも起因している。更に、YouTube を通じたリアルタイム配信を実施し、世界中から 13,000 以上の視聴を記録した。

このように関心が高まる一方で、国際的な NGO である UNISEC-Global は財政基盤も弱いため、発展途上国からの参加支援要請には十分応えておらず、情報共有の機会を提供できていない。また、4 年ぶりに日本 (東京) で開催されたにも拘らず、日本人学生の参加が少なかった。日本の宇宙開発の将来を担う日本人学生の参加を奨励する方策を考える必要がある。最後に、UNISEC の支部が 19ヶ国/地域に設立されたが、これらの地域における UNISEC 活動を有意義なものにする活動指針の review が必要となる。